

項目		件数
第1章 本計画の基本的事項	1～7 見直し趣旨、目的、期間、位置づけ、対象範囲、推進主体、構成	0
第2章 中間見直しの視点	1～2 これまでの振り返り、取り巻く状況	0
	3～4 見直しのポイント、環境の保全と創造にあたっての主要課題	0
第3章 環境基本計画のめざすもの	1 めざすべき環境像	0
	2 基本方針	0
	3 めざすべき環境像の実現に向けて	0
第4章 重点テーマ	重点テーマ1：「環境市民」が活躍する地域づくり	0
	重点テーマ2：自然環境が有する機能・魅力の活用	0
	重点テーマ3：脱炭素社会・循環型社会の形成による持続可能な社会	1
第5章 温室効果ガス削減目標		0
第6章 環境の分野別の方針	1 安全な生活環境を確保します	0
	2 自然環境を保全・再生します	0
	3 快適な都市環境を保全・創造します	1
	4 地球環境保全へ貢献します	5
	5 市民・事業者等による環境保全活動を促進します	0
第7章 計画の推進	1～3 推進体制、進行管理のしくみ、事業計画による施策・事業の推進	0
合計		7

項目	説明	件数
ア：反映	意見を受けて計画案等を修正したもの	0
イ：反映済み	既に計画案等に記載されているもの又は既に対応しているもの	1
ウ：参考	取組を推進する上で参考とするもの	6
エ：その他	意見募集の範囲と異なるもの、反映が困難なもの、質問など	0
合計		7

番号	項目	意見の概要	市の考え方（案）	対応
1	29頁目 第4章 重点テーマ3 脱炭素社会・循環型社会の形成による持続可能な社会	(賛同意見) 重点テーマ3に沿った施策の方向の文面。 【理由】高効率な省エネルギー設備・機器(燃料電池やコージェネレーション等)が記載されているため。	賛同意見として承ります。	ウ 参考
2	59頁目 第6章 3-3 気候変動に適応したまちをつくります	3-3 施策2 風水害対策の強化 ① 防災対策の推進 以下の通り新たな項目を追加することを提案します。 ----- -- 都市ガス事業者は、ガスの供給停止を伴う大規模な災害が発生した際に、都市ガスの供給エリア内のお客さまに対して、ガスの供給停止状況や復旧進捗状況を地図上に色分けして分かりやすくお知らせする「復旧マイマップ」をホームページにて周知します。 ----- -- 【理由】 「復旧マイマップ」では、お客さまがお住まいの地番単位まで地図を拡大して表示することができ、住所検索機能も活用することで、お客さま宅ごとのガスの供給停止状況や復旧進捗状況を確認できます。 *東京ガスは、今後も大規模災害発生時の二次災害防止や、安全かつ速やかなガスの供給再開に向けて防災対策に取り組むとともに、お客さまへの分かりやすい情報提供に努めてまいります。	「① 防災対策の推進」は、気候変動の影響により生じる二次的課題に対して、備えることを想定し記述したものであることから、各サービス事業者における個別、具体的な取組については記述しないこととします。	ウ 参考
3	61頁目 第6章 4 地球環境保全へ貢献します	(賛同意見) 4 地球環境保全へ貢献しますの文面。 【理由】高効率な省エネルギー機器(燃料電池・コージェネレーション等)が記載されているため。	賛同意見として承ります。	ウ 参考
4	62頁目 第6章 4-1 脱炭素社会の実現に向けて取り組みます	(賛同意見) 環境課題の文面。 【理由】コージェネレーション、ヒートポンプなどの高効率給湯器や…二酸化炭素の排出の少ないエネルギー源である天然ガスへの利用転換…などの文言が記載されているため。	賛同意見として承ります。	ウ 参考

番号	項目	意見の概要	市の考え方（案）	対応
5	62頁目 第6章 4-1 脱炭素社会の実現に向けて取り組みます	<p>4-1 脱炭素社会の実現に向けて取り組みます</p> <p>■環境課題</p> <p>以下の通り新たな項目を追加することを提案します。</p> <p>-----</p> <p>--</p> <p>*脱炭素化されたエネルギーである、水素・再エネ電気・カーボンニュートラル都市ガス、そして将来的にはカーボンニュートラルメタン等</p> <p>の活用により脱炭素エネルギーへの転換を推進していきます。</p> <p>-----</p> <p>--</p> <p>【理由】</p> <p>2050年に向けては、温室効果ガス排出の約80%を占めるエネルギー分野の取り組みが重要と思います。</p> <p>二酸化炭素排出量の少ない天然ガスへの燃料転換や天然ガスの高度利用の推進等を通じて地域の需要家の低炭素化への貢献が期待されます。将来、水素+CO2から合成(メタネーション)されたカーボンニュートラルメタンの技術が確立すれば、天然ガスを代替してカーボンニュートラルメタンを供給することにより脱炭素化にも貢献することができます。</p>	<p>2050年カーボンニュートラルに向けて、化石燃料からのエネルギー転換は求められています。本市としても、脱炭素化を推進していくうえで、太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの利活用や省エネルギー機器等の導入促進を進めていかなければならないと認識しており、すでに課題として記述しています。</p> <p>メタネーションなど新たな技術を利用したエネルギー転換についても、国等の動向を注視し、検討してまいります。</p>	イ 反映済み
6	63頁目 第6章 4-1 脱炭素社会の実現に向けて取り組みます	<p>(賛同意見)</p> <p>施策2 再生可能エネルギーや高効率な省エネルギー機器等の導入促進①の文面。</p> <p>【理由】 太陽光発電や燃料電池、コージェネレーション等が記載されているため。</p>	賛同意見として承ります。	ウ 参考
7	63頁目 第6章 4-1 脱炭素社会の実現に向けて取り組みます	<p>(賛同意見)</p> <p>再生可能エネルギーや高効率な省エネルギー機器等の導入促進②の文面。</p> <p>【理由】 燃料電池自動車(FCV)、FCVの普及促進のため、水素ステーションの誘致が記載されているため。</p>	賛同意見として承ります。	ウ 参考